

ぶらり らいぶらりい

～図書室にはこんな本があります～

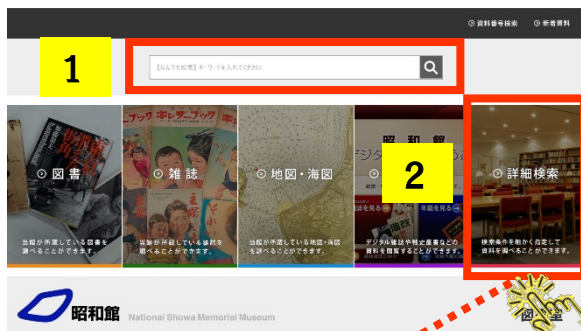
No. 244



* 利用者からの質問をもとに昭和館図書室の資料をご紹介します。
(書名の後の () の数字は請求記号です。)

検索端末に新しい機能が追加されています！

☐トップページ



1. なんでも検索

好きなキーワードから、図書、雑誌、地図、海図、映像・音響資料の所蔵を一括で検索することができるようになりました。

2. 詳細検索

キーワードと資料の種類や検索対象を複数かけあわせ、多様な条件で所蔵検索することができるようになりました。

☐詳細検索画面



☐ 検索結果一覧の絞込み検索や並べ替え表示にも新機能が追加されています。

図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさんあります。
検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。
操作方法等、カウンター職員までお気軽にお問い合わせください。



みすず^{しよぼう}書房創業75周年



～復員帰りの青年が立ち上げた出版社～

みすず書房は哲学・思想を中心に幅広い分野の書籍を取り扱っており、ロングセラーである『夜と霧』の出版元でもあります。この出版社は終戦直後に復員帰りの青年が中心になって立ち上げた会社であることはご存じでしょうか。

みすず書房は昭和20年(1945)12月に、長野県諏訪郡(現・茅野市)出身の23歳の小尾俊人(おび・としと)を中心に、焼け野原の東京で創業しました。

小尾俊人とはどのような人物だったのでしょうか。小尾は長野県の実業学校を卒業し、昭和15年(1940)の春、夜間大学と就職という二つの目的を同時に叶えるために、19歳で上京します。同級生の多くが軍需会社などに集団就職する中、小尾はひとり故郷をあとにして東京の羽田書店で働き始めました。しかし18年(1943)12月、学徒出陣で暁部隊(通信隊)に入隊し、金沢から広島へ、さらに下関へと派遣されます。

そして敗戦を迎え、羽田書店でともに働いていた同じ長野出身の山崎六郎、清水文男とともに3人で新たな出版社、みすず書房を立ち上げたのです。

ちなみに創業当時の社名はひらがなでなく、「美^{みすず}篤^か書房」という漢字表記でした。社名の由来は信濃にかかる枕詞「水(美)篤刈る」から来たものです。この新しい出版社の人脈はとぼしいものでしたが、小尾たちは出版で新しい人生を切り開きたいという熱意を持っていました。

小尾が昭和20年(1945)11月に書いた出版依頼の手紙から引用します。「在隊中のいろいろの感想は、つまるところわが国の文化をさらに高め、又理性的なものの考え方を広く民衆の中に徹底しなければならないという結論を生みました。心理を愛し、美しいものに感じ、深いものに憧れる、そういう心情はこの上もなく尊いことだと思います。」

また世間では、戦争中は抑^{よくあつ}圧されていた知識欲や娯^{ごらく}楽への希求により、戦後の出版ブームが巻き起っていたことも、この生まれたばかりの出版社にとって追い風になりました。

みすず書房のはじめての出版物は、昭和21年(1946)7月刊行の片山敏彦著『詩心の風光』で、一万部が印刷され完売しました。その後、会社の初期の売り上げをささえることになった、全70巻にもおよぶ『ロマン・ロラン全集』の第1回配本『獅子座の流星群』が21年12月に刊行されましたが、その装丁を見た思想史家の丸山眞男が思わず発した、『ああこれが戦後だ、戦争が終わったのだ。』という言葉も、丸山を尊敬していた小尾にとってどれほど勇気づけられたことでしょう。

創業75年という節目をむかえたみすず書房、ますます今後が楽しみです。

参考文献『小尾俊人の戦後』289 / 014 閉架一般

『日中両国の学徒と兵士』210.7/Ko12 閉架一般

ぶらりらいぶらりい ～図書室にはこんな本があります～ NO. 244

2021年5月20日 発行/ 編集・発行 昭和館 図書室 〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1